

日工販ニュースVol.17 No.2



もくじ

巻頭言「日本企業の国際競争力」	日工販理事 徳田 誠一	2
賀詞交歓会		4
我が社を語る	三菱マテリアルツールズ(株) 高田 修	9
話題の技術「新製品TC-22Bについて」	ブラザー販売(株) 中川 伸	10
SE教育「合格者」		12
甘口辛口「我がふるさと」	(株)ジーネット 中村 幸吉	13
トピックス「わが国工作機械産業の需給実績と見通し」		14
統計資料「工作機械業種別受注額」2004年日工会受注・販売実績」 「FA流通動態調査1・2」		18
工作機械と私	(株)井高 加藤 久佳	22
リレー随筆 Part 2「最近思うこと」	(株)山 善 伊澤 祐平	23
議事録「業界対策委員会」理事会」		24
私の読書評「まず動く」	サンコー商事(株) 柴山 勉	26
消息・行事		27
会員会社		28

日本企業の国際競争力



日工販理事

徳田 誠 一

(三菱商事テクノス㈱ 取締役社長)

国際舞台で活躍する日本人は大勢いる。スポーツ(松井秀喜、イチロー、中村俊輔)、音楽(小澤征爾、YMO)、国際機関(明石康、緒方貞子)など枚挙にいとまが無い。しかし経営者としてグローバルに活躍している人は殆どいない。グローバル企業のトップを務めている人はいないし、ダボス会議でスピーカーを務めた人も数えるほどである。これは教育システムを考え直さないと解決できない問題だと思う。TOEICスコアの低さは時代遅れの英語教育プログラムの産物であり、学力の低下は基礎教育改革の迷走に帰するものである。大学の社会科学分野に於ける低い国際評価は魅力の乏しいカリキュラムのせいで、先進国からの経済・経営学分野への留学生は稀で、ノーベル経済学賞受賞者も輩出していない。

一方、日本で先行的需要が生み出されたフォークリフト、デジタルカメラ、プリンター、ゲーム機、ウォークマン等多数の製品が、グローバル製品市場に受け入れられてきた。また、国際競争力の源泉である特許を見ても、米国での企業別特許取得ランキングでは日本企業は圧倒的なポジションを占めている。さらに日本企業には、国際ブランド力、国内に於ける部品調達力、企業によるR&D投資、企業による顧客対応、さらには生産性向上に対する労働組合の理解と貢献、と言った強みが認められる。



前述の経営者問題に対しては産学官一体となつての解決が急がれるが、今後日本企業がグローバル化の波に力強く立ち向かって行く為には、これ等製品市場分野での強みを維持することに加えて、戦略面でのメリハリが欠かせないを考える。確かに日本企業はオペレーションの効率化ではカイゼン、カンバン等グローバルスタンダードを築いてきた。しかしオペレーションの効率化だけでは、抜群の高利益率を永く維持することはできないし、常に競争の同質化やITによる逆転のリスクに晒される運命にあるからだ。

戦略面でのメリハリとは、他社との差別化及び集中と選択であり、過去の成功体験は捨てる勇気を持つことである。松井証券の戦略(創業80年でフルラインの証券会社が、法人や取引経験の浅い個人を顧客から外し、投信・MMF・債権・引受・ディーリング・全営業店・コールセンターを廃止、オンライン信用取引に特化して低コスト体制を確立)、アスクルの戦略(町の文具店の顧客であった中小事業所をターゲット顧客とし、逆にお客との接点を持つ文具店はエージェントとして中小事業所の開拓と債権回収に起用。データベースを押さえ、これをパートナーと共有し、顧客ニーズの発見と充足に活用)、HOYAの戦略(業界の慣行に逆行して小売店への直販を開始。独自のオンライン注文システムを構築しメガネ店の個別顧客に関する情報負担を軽減化。カスタマイズする為に特注工場を市場近くに建て、同時に途上国で集中生産を行い、量産効果を得る)が格好の手本となる。

日本人の器用さ、日本式阿吽の呼吸が世界では通用しないことを肝に銘ずるべきである。

平成17年日工販賀詞交歓会開催



日工販の平成17年新年賀詞交歓会が例年通り八重洲富士屋ホテル「櫻の間」において1月12日(水)12時30分より1時間半にわたり、盛大に催されました。

当日は好天に恵まれ、関係官庁、諸団体、報道関係から多数の来賓のご出席をいただき、会員を含め184名と大盛況でした。

会は庄司専務理事の司会で始まり、石川会長の年頭の挨拶に引き続き経済産業省製造産業局産業機械課課長の小宮義則様並びに(社)日本工作機械工業会副会長の牧野二郎様より来賓のご挨拶を賜りました。続いて昨年の総会以降に入会されました新会員16社(内12社出席)が紹介された後、日本工作機械輸入協会会長近野通明様のご発声により一同乾杯をし、賀詞交歓が繰り上げられました。宴たけなわの中、定刻2時になり後藤副会長による一本締めで中締めがあり散会となりました。

ご多忙中にも拘わらず出席を賜りましたご来賓、会員各位にあらためてお礼申し上げますとともに、本年のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。(事務局)



新会員出席者紹介

石川会長挨拶：

皆さん明けましておめでとうございます。

今年の正月は大晦日の大雪から一転して元旦は透き通るような快晴となりました。工作機械業界の現状を映すような日本晴れとなり皆様はよいお正月を迎えられたこととお喜び申し上げます。昨年を振り返ってみますと世界政治経済は一部テロ等紛争がありましたが全般的には概して平穏で景気回復を実感できる1年ではなかったでしょうか。国内では各地に多くの台風の襲来、水害、中越大地震と大きな災害が続きました。海外でも年末にスマトラ沖の大地震が発生し、その余波で大津波が各国を襲い大きな災害を齎し、15万人を超える大惨事となり、地震の恐さを再認識させられました。被害を受けられた方々には心よりお見舞い申し上げ1日でも早く復興されるようお祈り申し上げますとともに、亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



石川会長

工作機械業界は昨年1年間好調裡に推移してまいりました。日工会の統計によりますと年間受注額は1兆2,300億円に達した模様であり、大方の方々が年初予想した数字を大幅に上回り一昨年と比較して40%増となり、バブル期以来の数字を記録したようでございます。この勢いは急激に腰折れすることはないと思います。今年の年間の受注総額は内需で5,000億円強、外需で5,000億円程度、総額で1兆円を少し超える程度になると日工販では予測しております。好調な自動車産業の旺盛な設備投資意欲に牽引されまして中小企業にも設備更新の流れが広がってきており工作機械の需要は根強いものがあると想像されます。機械が磨り減った、古くなった、壊れそうだ等のことではなく、新しい製品を作るために、あるいはよりよい製品を作ってより利益を上げるという前向きな理由で設備更新に踏み出す企業が増えている現実があるように見受けられます。この動きは暫らく止まらず続くものと思われまふ。ただ憂慮されるのは機械の納期が長くなっていることです。原料、素材の段階から納期が延びてきており、そう簡単には納期短縮が実現できると思われまふ。この辺がユーザーの購入心理にどのような影響を及ぼすのか少しばかり気がかりでございます。これが混乱なく上手に解消できれば、先ほどの年間受注額をかなり上方に上ぶれるのではないかと期待しています。

このような順調な業績が期待されるこの時期ではございますが、我々としてはバブル期以降随分厳しい時代を過したことを肝に銘じまして、浮つくことなく落ちついて丁寧に仕事を進めていきたいと考えております。メーカーの皆様と一緒にユーザーの方々とさらには一般消費者の存在に思いをはせモノづくりに貢献して行ければと思います。同時に我々自身も将来とも利益が上がって安定的な経営ができるような道筋を見つめる努力を続けていきたいと思ひます。

日工販は昨年会員増強プロジェクトを推進致しまして多くの新しい人々に入会していただきました。皆様方には日工販に入ってよかったと言われるように活動を活発化して行きたいと思ひております。今年もSE教育講座、各地区の研修会、懇談会、講演会等の各種行事に充実した企画ができるよう努力していく所存でございます。会員の皆様には是非とも旧年に倍して日工販にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが会員各社の益々のご発展とご繁栄を、また、ご参集いただきました皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念致しまして私の新年のご挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶：

経済産業省 製造産業局 産業機械課 課長

小宮 義 則 氏

明けましておめでとうございます。

新年の賀詞交歓会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。先ほど会長から非常に力強い本年の景気、販売見通しが披露されたところでございますが、私も全く同感でございます。正直言いまして私の所管する機械業界の中で実は工作機械業界が最も明るく強い業界



小宮義則氏

でございます。ものによってはまだまだ厳しい業界もありますが、やはりマザーマシンとしての工作機械業界がこれだけ明るいということになると私の景気楽観論の裏打ちを得たと感じる次第です。

今年の景気は皆様が騒いでいるほど悪くはないということで、理由は幾つかあると思います。悪くなると言われる方の理由は、1番目はITがこける、2番目は中国がこける、3番目は原油が高止まりする、この3つです。半導体製造装置も所管していますが、2000年に異常な伸びがあり、反動として2001年にITバブルがはじけました。しかし、昨年の半導体製造装置の伸びは2000年の半分以下でしたので、落ち込むとしても半分以下であり、今年の後半には回復するであろうというのが関係業界の見方であります。中国は北京オリンピック、上海万博があり、それまでずっと伸びていくであろうというのが大方の見方です。10%以上に過熱するのを8%成長の巡航速度に乗せようというのが中国政府の考え方であり、別に5%以下の低成長に落としこむと言っている訳ではありません。3番目の原油高ですが、中国が原油を含め原材料を世界中から買占めるので値上がりすると見て、米国の投機筋が投機的に原油を買いあさったのが高騰の原因であります。産油国は生産量を増やしており、昨年の秋に中国が利上げすると発表した瞬間に、原油価格は40ドル台に下がった。実は、中国がこけるという話と原油高は両立しません。従って、あまりこの3つの説による景気が悪くなるとは思っていません。むしろ、今年も景気は高止まりすると私は見えています。

ただ唯一の問題として心配なのはドルレートの問題で、米国の双子の赤字は構造的なものである。大統領選も終わり金融マーケットも双子の赤字が解消されるのかという点に注目が集まっていますが、昨秋、米政府高官がゆっくりとしたドル安はしょうがないと欧州の銀行団へ話したことがプレスに漏れ、それが機に、一方的にドル安になったのは記憶に新しいところです。勿論、ドル安が急激に進むと日本経済にもよくないし、皆さんの商売にも影響してくる。例えば、年初に円高調査したところ、ターゲットレートの平均は107円であり、近頃104~105円で推移しており、この程度なら全く問題はないと見っていますが、急速に100円を割るようになると色々な意味でインパクトがあると思われます。円高になると直ぐに中小企業に波及効果がでてしまうことです。工作機械の好調の原因は自動車と中小企業であると思われますが、中小企業に影響が出てくると工作機械業界に非常に影響することが唯一の心配事です。

構造的な問題に目を移します、最近日本回帰の現象がでています。多くの企業で質、精度を重視するという観点から中国にも工場進出はするがハイテクや精度を要求されるものは日本の中で生産するといった動きがでていていると感じています。マーケットがこの動きを求めているということです。高度成長の時

代には作ればモノが売れる時代がありましたが、今はマーケットの求めているモノを供給する方が、最終的には利益を得ることになる。その意味では、販売業界の皆様は前にも増して難しい局面にある一方、モノづくりの観点から益々重要性が高まっているといえます。

経済産業省の大臣もしくは次官の今年の年頭の挨拶ではミクロの産業政策を行えと言われていますが、これは実は何が求められているのかを丹念に追えと言うことであり、産業機械課は産業政策の最前線にいる訳であり、まさにマーケットは何を求めているのかをよく勉強していきたいと思っています。そういう意味で、今後とも我々に対してご指導いただければありがたいと思っている次第です。

長くなりましたが販売協会の本年のご発展と皆様方のご健勝を祈念致しまして私の新年のご挨拶とさせていただきます。有難うございました。

(社)日本工作機械工業会副会長 牧野 二郎 氏
皆さん明けましておめでとうございます。

本来ですと大西会長が参上してご挨拶をすべきところですが新年で会合が重なっておりますので出席できません。代わりに私がご挨拶申し上げるように仰せつかって参りました。本年はこのような主旨でお話するようにと仰せつかってきましたので、それに沿ってお話をさせていただきます。

「昨年の台風の上陸、中越地震、その他年末のインド洋沿岸の大津波と国内外の大災害を受けて多くの尊い人命を失われましたことに衷心よりお悔やみ申し上げます。

昨年の日本経済は製造業の活発な設備投資、北米、アジア向け特に中国向けの輸出の進展により多くの企業は過去最高の利益を出すことができました。我々工作機械業界も一昨年来自動車関連の好調で市況が好転してきました。昨年はあらゆる企業、大企業、中小企業といわず設備投資が活発化し生産が受注に追いつかないような現象も見受けられました。また11月に14万人強を集めて開催されたJIMTOFによる上乘せ効果もあり2004年12月の速報ベースの受注総額は1,154億円となり27ヵ月連続前年比増となり、暦年ベースの受注は45%増となり総額1兆2,350億円となりました。本年に入って、調整局面に入るのではと危惧する声がある一方、国際競争力強化のための設備投資強化、自動車産業が発展途上国においてのシェアを獲得するための世界規模での生産力増強、あるいは環境投資、中小企業の老朽化防止のための合理化投資など各層ユーザーが本格的な設備投資を控えており、底堅い需要が増えています。また海外市場も順調に推移すると考えています。従って、本年の受注額は1兆1,500億円程度になると推測しております。

しかしこのような時こそ企業の基盤を堅固なものにするということで人材育成を強化する、或いはその他の対策を取ることによって次の時代に備えたいと考えています。従って人材投資促進税制の実現に前向きに取り組んでいるところです。また次世代の開発促進に向け、高度機械加工システム開発事業に取り組むほか、原価償却制度の抜本的見直しに向けて政府へ練り強く交渉をして行きます。また日工販



牧野二郎氏

の皆様のご協力をお願い致します。また本年が皆様にとってさらなる飛躍の年になるよう祈念致しまして年頭のご挨拶とさせていただきます。」

以上ですが、冒頭に石川会長の挨拶にありましたように、昨年来より後向きの投資から前向きの投資に変わり力強いかがりであります。一言付け加えさしていただくと、唯一の懸念材料が機械の納期が長くなっていることだけが問題であるとお話ですが、我々サプライ側の立場から申し上げますと、工作機械が欲しい時にいつでも手に入るというのはおかしいのであり、過去10年間そもそもおかしかったといえますが、とはいえユーザーに使っていただいて我々も利益を得ることになるので、我々メーカー側も大いに努力をして皆さんに少しでもご満足いただけるように致す所存です。

日工販の皆様には昨年以上に色々なかたちでご指導ご支援をいただきたいと存じます。これを持ちまして日工会からの新年のメッセージとさせていただきますと思います。

どうも有難うございました。

乾 杯：

日本工作機械輸入協会 会長 近 野 通 明 氏

明けましておめでとうございます。

本日は盛大なる賀詞交歓会にお招き頂きまして有難うございます。

皆様のお話にありますように昨年はよい年でありました。また本年は、小宮課長よりバックグラウンドはよいとお話があり、日工会の大西会長は受注額が1兆1,500億円と予測され、石川会長は少し低い数字を言っておられましたが、いずれにしても今年はよい年であると思われれます。

それでは日本工作機械販売協会の皆様のご活躍とご来席の皆様のご健勝とご多幸を祈念致しまして乾杯をしたいと存じますので、ご唱和をお願いします。

乾杯！



近野通明氏



中締めをする後藤副会長

我が社を語る

三菱マテリアルツールズ株式会社



取締役社長
高田 修

国内最大規模の切削工具販売のプロ集団

2003年4月、三菱マテリアル株式会社の国内販売部門であるMMCダイヤチタニット株式会社とMMCコベルコツール株式会社の国内販売部門が統合され、誕生したのが「三菱マテリアルツールズ株式会社」です。

三菱マテリアルグループの製造する切削工具を一手に取り扱う国内販売会社として、グループの世界戦略である「グローバル10(超硬工具で世界シェア10%の実現)」の達成に向け、中核を担う会社が「三菱マテリアルツールズ」です。従来、三菱マテリアル株式会社は「三菱の超硬工具」として「ダイヤチタニット」ブランドを販売してまいりました。

また、MMCコベルコツール株式会社は、前身の神戸製鋼時代の1912年に日本で初めてハイスドリルを製造して以来、「コベルコ」ブランドを販売してまいりました。何れも、永年の歴史と信頼性のある「高性能」、「高品質」のブランドとして国内外のお客様から高い評価をいただけてきました。

今後ともお客様の高い信頼、先進性、革新性への期待に応えるべく、この二つのブランドを統合して、新しく「MITSUBISHI」ブランドは誕生しました。

「MITSUBISHI」ブランドに表される「三菱」の信頼感は、日本を代表する企業集団である三菱グループより発展、維持されてきたものですが、この名前に恥じない製品を、両者の持つ素材技術、コーティング技術を高い次元で昇華して製造、開発してまいります。

そしてその先進の製品を、長年培われてきた営業ノウハウをもとに、お客様に価値ある形でお届けするプロ集団、それが「三菱マテリアルツールズ」です。

東日本支店、中部支店、西日本支店の3支店体制及び18営業所と合わせて21の営業拠点で全国をカバーし、お客様の要望に迅速に対応してまいります。

会社概要

本社：〒130-0015 東京都墨田区横網1-6-1

Tel：03-5819-5240 Fax：03-5819-5248

支店：東日本(東京)、中部(名古屋)、西日本(大阪)

営業所：苫小牧、仙台、郡山、新潟、上田、北関東、大田、南関東、富士、静岡、
安城、浜松、金沢、東大阪、明石、岡山、広島、九州

資本金：1億円

従業員：320名

分かりやすい話題の技術

No.76

拡がる・超える・30番 Completed by #30 ブラザーCNCタッピングセンター 新製品 TC-22B について



ブラザー販売(株)
産業機器事業部 ソリューショングループ
戦略事業チーム チーフ
中 川 伸

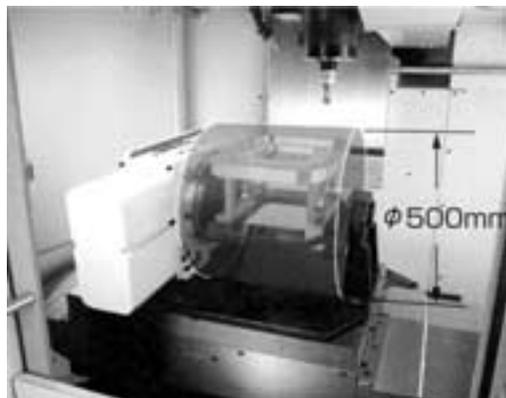
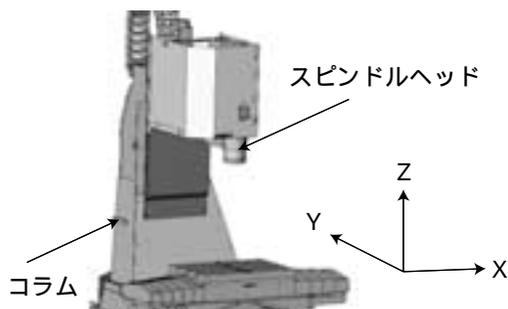
ブラザーCNCタッピングセンター「TC-22B」は、従来機の機能、信頼性を大幅に向上させたテーブルトラバースマシンで、今までの30番マシンでは対応が困難とされていた大型自動車部品の多面加工や、より高精度のリーマ・ボーリング等の仕上げ加工に対応した最上位モデルです。

タッピングセンターの自動車業界向けアプリケーションは、スターターやオルタネーターなど小物アルミ自動車部品の穴明け、タップ加工から始まり、小物部品ではあるが加工精度が要求されるリーマ、ボーリング加工へ展開する方向と、大型部品の穴明け、タップ加工へ展開する方向へとその領域を広げてきました。今回、紹介する新製品TC-22Bは、タッピングセンターのアプリケーション領域をさらに大型ワークの仕上げ加工(ボーリング、リーマ)に広げる為に開発されたものです。

主な特徴

1. 加工エリアの拡大

コラムとスピンドルヘッドの剛性を大幅に上げることにより、特に難しかったY軸方向のストロークを50mm長くしております。また、Z軸の最下点を50mm上げる対応も施されております。各軸のストロークは、X：500mm(700mm TC-22B-O)、Y：450mm、Z：410mm(ATC領域80mm含む)となり、この加工領域の拡張により、旋回径500mmのゆりかご式治具の搭載が可能になりました。また、想定される搭載治具の大型化に伴う治具質量増加に対応する為、テーブル最大積載質量を従来機より100kg上げ、300kgまで対応可能にしてあります。



旋回径 500mmのゆりかご式治具

2. 高精度化

コラム、スピンドルヘッドの機械剛性のバランス改善や、スピンドル径を太くし剛性を上げるなどの対策でこれまでのモデルでは困難とされていた大径ロングボーリングツールの高回転・高速加工を可能としています。高回転加工領域において、従来機の1/3に真円度をおさえることができました。

また、機械動作によって温度変化するクーラント(切削油剤)の機械部材への飛散防止や流路改善することでコラム変形の抑制、あるいは機械稼動状況を監視し各部材の熱膨張をソフト的に自動で補正するシステム(熱変位自動補正システム)をX、Y、Z軸全軸に標準搭載することで、機械の発熱・膨張によって生じる加工位置ズレを最小限におさえています。

このようにTC-22Bは 仕上げ加工、特に、自動車のアルミ大物ワークのベアリング穴などのボーリング高速仕上げ加工や位置精度が必要なノック穴加工においてタッピングセンターのアプリケーションを広げます。



80mmボーリング加工

- (加工内容)
- アルミニウム(A2017)ブロックに 80mm、深さ25mmのボーリング加工を行う
- (ツール)
- L=225mm、 80mmボーリングバー
- チップ：ダイヤモンド、
- バランス等級：2.5G(7,000min⁻¹)
- (加工条件)
- 主軸回転数：8,000min⁻¹
- 送り：240mm/min
- (加工結果)
- 円筒度：4.3μm
- 面粗さ：Ra0.309μm

3. 高信頼性

TC-22Bは自動車部品加工をターゲットとしており、それゆえ、過酷な使用環境に耐えうるべく信頼性を大幅にアップしています。

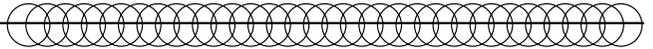
加工により大量に発生する切りくずや霧状のクーラントから機械部材(工具交換装置や工具収納室、あるいはスピンドルモータやセンサー類ほか)を完全カバーリングすることで、マシンダウンや加工精度不良を大幅に低減します。

4. 新NC制御装置(B00シリーズ)

最新NC制御装置(B00)により、さらなる高速化を実現(X,Y,Z軸の早送り速度70m/min、加速度1.0G以上)、生産性向上に貢献します。

また、最新NC制御装置(B00)の新機能である3次元工具軌跡描画、ヘルプ機能の充実、ガイダンス機能、メモリ容量の増加(標準:2Mバイト、オプション:120Mバイト)、メモリーカードインターフェース機能(オプション)などにより操作性を大幅に向上させ段取り時間の短縮や操作ミスを防ぎます。また、内蔵PLC機能(オプション)により、治具など周辺機器の電装関連の簡素化と機械側でのモニター、診断が可能になります。

より以上のコストダウンが叫ばれる自動車部品の加工業界では、高速性、コストパフォーマンスに優れた30番マシンは特に最近注目を集めるようになりました。その30番マシンのなかでも特に生産現場の声を可能な限り取り入れたTC-22Bは市場要求に充分こたえることが出来るマシンです。



日工販SE合格者 第119回発表

今回は1月の合格者3名です。

認定No.	会社名	合格者名
05-14-1626	(株)ジーネット	妙見幸雄
05-14-1627	日本機械リース販売(株)	横田 清
05-14-1628	メガシステムエンジニアリング(株)	安藤慎悟

『更新研修』合格者 第73回発表

今回は1月の合格者16名です。

認定No.	会社名	合格者名	認定No.	会社名	合格者名
05-9R-1045	(株)兼松K G K	高橋晋一	05-9R-1314	サンコー商事(株)	桐山 豊
05-9R-0880	(株)共和工機	川村美富	05-9R-1362	サンコー商事(株)	楓 伴明
05-9R-1183	住友商事マシネックス(株)	藤原 研	05-9R-1268	(株)東 陽	藤森祥二
05-9R-1306	常盤産業(株)	遠藤正澄	05-9R-1216	(株)山 善	祝原英隆
05-9R-1309	甲信商事(株)	千村 貴	05-9R-0896	UFJセントラルリース(株)	葛城 浩
05-9R-1274	サンコー商事(株)	坂井一斉	05-9R-1212	日立キャピタル(株)	工藤隆康
			05-9R-1213	山田マシンツール(株)	内谷貴幸
			05-9R-1051	三和工機(株)	河村正寿
			05-9R-1267	ユアサテクノ(株)	米村彰洋
			05-9R-1358	ユアサテクノ(株)	伊地知信



「我がふるさと」

(株)ジーネット 東京支社
機械部長
中村 幸吉

このコーナーへの寄稿を依頼されたときは何をテーマにすべきか、正直言って戸惑いました。この業界の事柄に関して諸先輩方に対して私の愚見を述べるのも失礼かと考え私の自慢できる我がふるさとのことをご紹介しますと思います。

そこは、「近畿のヘソ」といわれている所、和歌山県の紀伊半島の端っこに位置する那智勝浦町です。本州最南端、“ここは串本向いは大島...”の唄でも有名な串本から三重県寄りに車で一時間ほど走った処に有ります。温暖な気候と海と山に囲まれた温泉の町としても親しまれて来たところです。又、商売の神様として代表される紀伊国屋文左衛門や松下幸之助等を輩出してきた紀州の国ですが、昨年一躍世界の脚光を浴びる事になりました。昨年の7月に「紀伊山地の霊場と参詣道」がいわゆる文化遺産として世界遺産登録される事が決定されたのです。「熊野本宮大社」「熊野速玉大社」「熊野那智大社」の三社を総称して熊野三山と呼ばれていますがこの熊野三山に詣でる為の道が熊野古道と呼ばれ古くは平安時代の中期から法皇や上皇の御幸が始まり、さらには武士、庶民へと信仰が広がり「蟻の熊野詣」と言われたほど沢山の人が訪れたところです。ルートとしては京都、大阪からの紀伊路と伊勢、尾鷲からの伊勢路が主なルートだったようですが、基本的には現在もこのルートがメインになっています。

私は社会人になって以来京都に住んでいる関係上、今は年に2回程墓参りを兼ねて田舎へ帰っておりますが、国道42号線を海岸沿いに南に下り、小さな漁港を何ヵ所も通り抜けながら走る気分も又格別なもので日頃のストレス解消にはもってこいですし昔を思い出させてくれる最高のリフレッシュになります。お正月には毎年那智山へ上り(今では車で山の上迄行ける)西国一番札所の青岸渡寺と隣接する那智大社を掛け持ちでお参りし、那智の滝を一望しながら一年の無事を祈念するのが通例になっています。道すがらうっそうとした森の中を通る静寂に包まれたこの熊野古道は熊野の神が今にも現れそうな錯覚さえ起させるほど神秘的でタイムトンネルの様でもあります。是非この熊野古道を何時の日か走破してみたいと考えております。

ただ、残念に思う事は地方に有りがちな過疎化の問題です。若い人は都会へと職を求め地元を離れてしまい街は活気が無くなっていく一方です。名湯で名高い勝浦温泉や湯川温泉などは一時の隆盛も今は昔の話でさびしいかぎりです。位置的にも大阪の商圈と名古屋、三重の商圈が入り混じり、又距離的に余りにも遠すぎる為、取り残された島国の様な感覚さえ覚えます。近年紀伊半島を縦断する綺麗に舗装された道も完成されてはいますがまだまだ満足いく物にはなっていませんし地域振興の為に交通のインフラ整備を是非とも急いでほしいものだと思わずにはいられません。高速道路建設も徐々に進んではいますが我がふるさとまではまだまだ遠い道のりです。

数年前より一部の企業も進出されておりますが、「ふるさとは遠くに在りて想うもの」で昔の良き時代のみままであってほしいと我ままに思う反面、那智勝浦が往時の活気を取り戻し、沢山の人が来て頂けるそんな地域に復活できる様念じてやみません

わが国工作機械産業の需給実績と見通し

ニュースダイジェスト主催の「2005年FA業界新年賀詞交歓会」が1月12日名古屋のホテルキャッスルプラザで開催され、恒例の「わが国工作機械産業の需給と見通し」が発表されました。

同社の好意で資料を提供していただきましたので、ここに転載いたします。

わが国工作機械産業の需給実績と見通し

[2005年1月12日発表・暦年ベース]

ニュースダイジェスト社《月刊・生産財マーケティング》編集部

1. 受注〔日本工作機械工業会統計〕

(単位：百万円・前年比%)

	2001年	前年比	2002年	前年比	2003年	前年比	2004年	前年比	2005年	前年比
総金額	788 898	-19.1	675 837	-14.3	851,101	+25.9	1,230 000	+44.5	1,180 000	-4.1
内 需	411,125	-21.2	350 322	-14.8	441 587	+26.1	674 000	+52.6	620 000	-8.0
外 需	377 773	-16.7	325 515	-13.8	409 514	+25.8	556 000	+35.8	560 000	+0.7

昨04年の受注は、内外需ともすこぶる順調。受注総額(一部推定)の対前年比伸び率は40%を突破し、88年の42.8%を上回る過去最大幅になった。受注額は90年、89年に次いで市場3番目の規模。一般機械、自動車が牽引する内需に、好調な中国、東南アジアや、回復著しい北米、EUの外需が押し上げた。

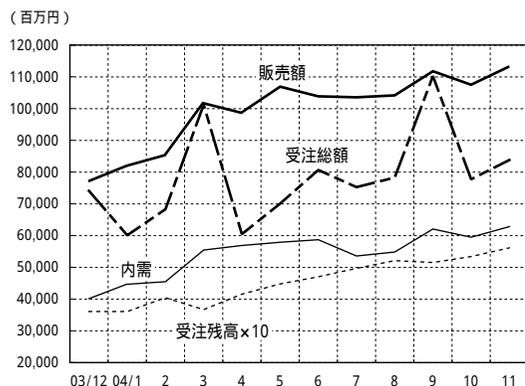
04年受注の変化を月別に追うと、年央以降、投資額をもう一段上積みした自動車向けと米国の復調が際立ち、しり上がり状態へ。JIMTOFが開かれた11月を含む第4四半期は月間平均1,100億円台に上っている。

今05年は、引き続き自動車産業の増強投資が活発。外需も最大市場の米国向けが昨年後半から勢いを取り戻した。電気・電子・精密機器向けや建設機械を中心にした一般機械でやや一服感があるが、拡大投資と更新投資がなお続く自動車産業と堅い輸出で、一定規模の受注額は確保するだろう。前年比弱含み横ばいか。

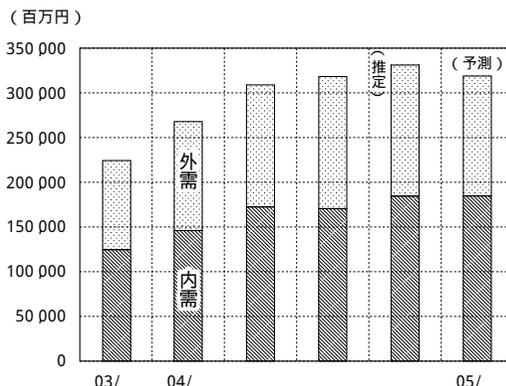
下欄に四半期ごとの受注予想額を示す(単位=百万円)。

	04.	05.	05.	05.	05.
受注総額	332 000	320 000	287 000	290 000	283 000
前年同期比	+46.7	+19.1	-7.5	-9.3	-14.8
内 需	185 000	186 000	149 000	157 000	139 000
外 需	147 000	134 000	138 000	133 000	144 000

工作機械受注実績



四半期別の内・外需推移



2. 生産〔経産省機械統計〕

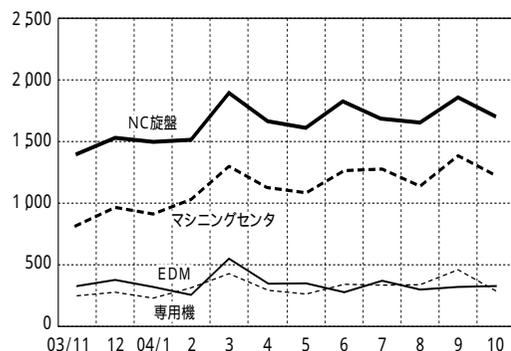
(単位：百万円・台・トン・前年比%)

	2001年	前年比	2002年	前年比	2003年	前年比	2004年	前年比	2005年	前年比
総金額	776 453	-4.6	585 098	-24.6	690 205	+18.0	870 000	+26.0	920 000	+5.7
台数	74 572	-17.9	55 807	-20.8	65 673	+17.7	76 500	+16.5	76 800	+0.4
重量	300 527	-4.2	227 217	-20.1	272 171	+19.8	354 000	+30.1	375 000	+5.9
・単価	10.4	+15.5	10.5	+1.0	10.5	±0	11.4	+8.6	12.0	+5.3

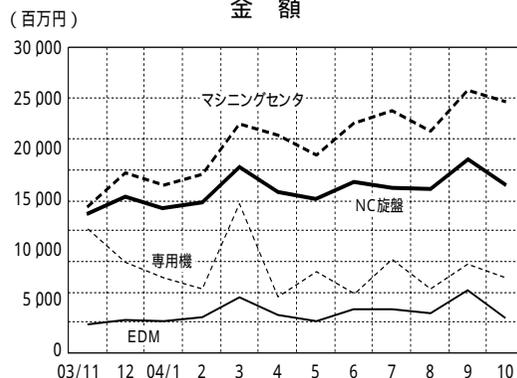
04年の生産は、主に自動車と同関連金型産業からの好調な受注を背景に、同市場を得意とするメーカーを中心に年間を通じてほとんどフル操業状態。が、片側でバブル投資の二の舞いは避けようと、生産能力拡大への慎重な姿勢も固かった。年後半、長引く一方の納期に対する発注側の圧力に耐えきれず、ついに増強投資に踏み出すメーカーが出始めたが、材料・部品を含めて、供給力不足を満たすまでには至らなかった。

昨11月末受注残(日工会、金額ベース)は、同8～10月平均月産能力に対して7.4ヵ月に膨らんでいる。05年はこの消化と、引き続き自動車業界の中長期拡張計画による受注があり、5年ぶりに9,000億円台に回復か。

台数



金額



3. 輸出〔財務省貿易統計〕

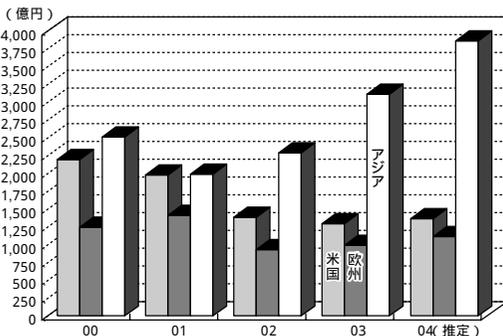
(単位：百万円・前年比%)

	2001年	前年比	2002年	前年比	2003年	前年比	2004年	前年比	2005年	前年比
総金額	558,403	-9.9	484,668	-13.2	564,105	+16.4	657,000	+16.5	770,000	+17.2
・対米国	197,388	-9.9	138,646	-29.8	128,758	-7.1	136,000	+5.6	193,000	+41.9
・対欧州	140,404	+13.9	92,326	-34.3	98,754	+7.0	110,000	+11.4	132,000	+20.0
・対アジア	197,588	-20.9	228,235	+15.5	311,009	+36.3	385,000	+23.8	460,000	+19.5

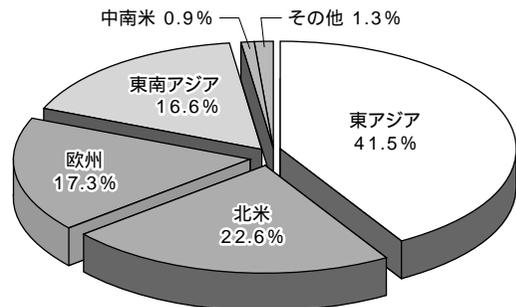
04年の輸出は下がり続けていた米国向けが底を打ち、3年ぶりに上向きに転じたほか、横這い気味で推移していた欧州向けもドイツ、フランスなど主要国で反転開始。アジア向けの拡大が頼りだったが、ここに来て世界全部ロックが回復で歩調を合わせた。04年の生産額に占める輸出比率は72.2%に達した模様。

05年も前年と同じようなペースで拡大模様。一貫して日本の輸出を牽引してきた米国の復調が全体を底上げた。欧州も前年の受注実績では30%台後半にあり今年、通関の実績になって返ってくる。ただ、大幅な増加を続けたアジア、特に中国向けは、減りはしないが、勢いがいくぶん弱まりつつある。

主な市場別輸出高の推移



2004年上半期市場構成比(総額3,135億円)



4. 輸入〔財務省貿易統計〕

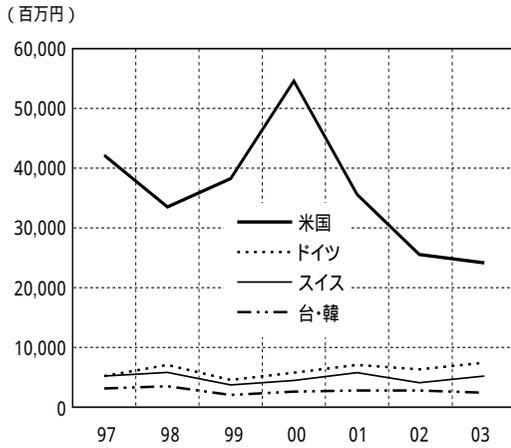
(単位：百万円・前年比%)

	2001年	前年比	2002年	前年比	2003年	前年比	2004年	前年比	2005年	前年比
総金額	69,619	-18.6	50,904	-26.9	53,163	+4.4	85,000	+59.9	76,000	-10.6
・米国	35,767	-17.9	25,282	-29.4	24,275	-4.0	46,000	+89.5	48,000	+4.3
・欧州	21,964	+18.3	15,965	-27.4	16,643	+4.2	21,000	+26.2	20,000	-4.8

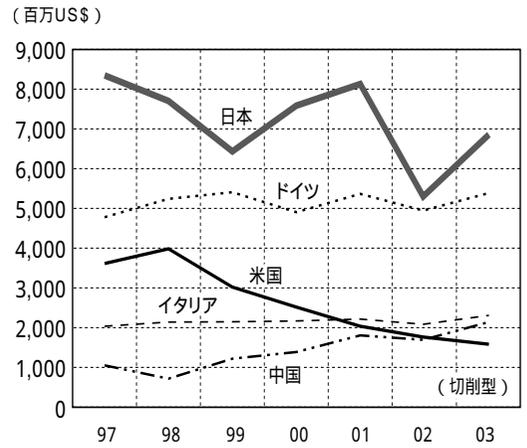
04年の輸入は、米国から半導体製造関連の設備が大量に入り、金額ベースを大きく押し上げた。半導体投資ばかりでなく昨年は内需が盛り上がり、その中には納期が長くなった国産機を避けて輸入機に依存した部分もある。輸入高の年間800億円台は、やはり半導体製造、IT投資が活発だった00年に次いで史上2度目。

05年はIT、半導体投資にややかげりが出始めており、全体に縮小傾向か。一方、ドイツ、スイス、イタリアなど欧州機の輸入も、国産機の供給力が徐々に増しており、昨年ほどの勢いは期待できまい。

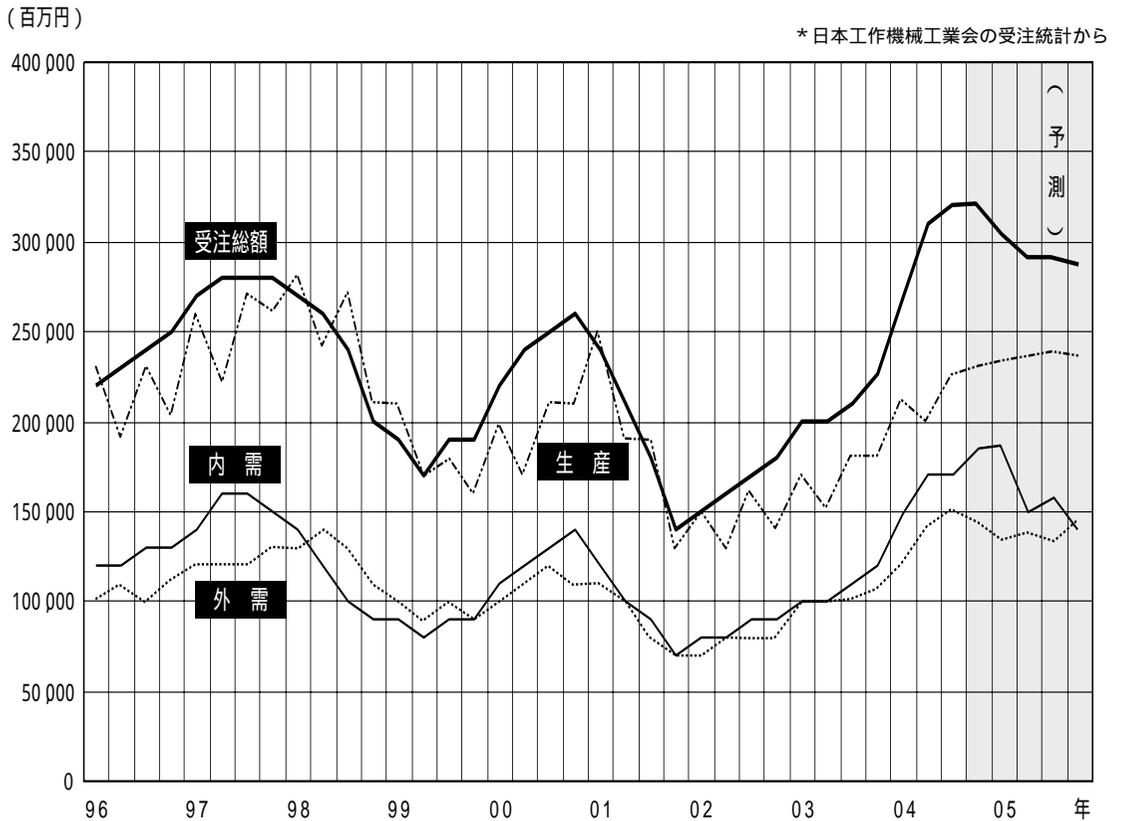
工作機械輸入の国別推移



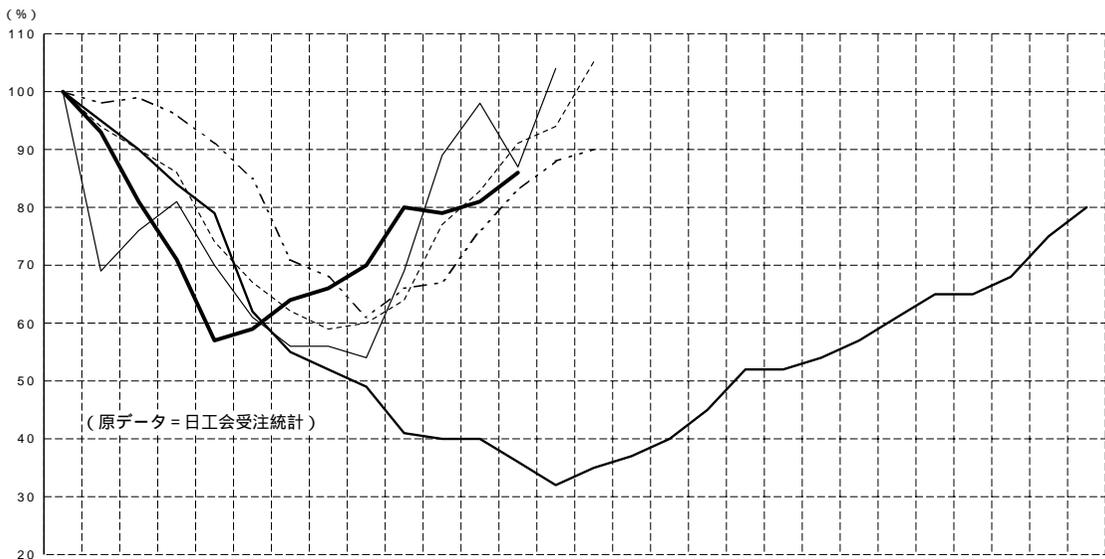
主要国の工作機械生産推移
(米Gardner Publ.)



業界景気動向 (四半期別に見た工作機械の需給変動)



過去の業界景気パターン（景気変動の「深度」と「期間」の相関：横1目盛＝四半期）



【グラフ説明】

	頂点P	底点B	底点/頂点	P B期間	B P期間
50年不況	73年 (64 334)	75年 (34 640)	53 84	24か月間	18か月間『オイル・ショック』
61年不況	85年 (266 873)	87年 (157 690)	59 08	21か月間	22か月間『第2次円高ショック』
平成第1	90年 (362 446)	93年 (114 914)	31 71	42か月間	43か月間『バブル経済崩壊』
平成第2	97年 (288 732)	99年 (176 602)	61 16	23か月間	16か月間『金融システム破綻』
デフレ不況	00年 (260 587)	01年 (148 929)	56 79	16か月間	? 『IT不況・構造改革』

工作機械業種別受注額(2004年12月)

(単位：百万円、%)

需要業種	期 間	2003年 累 計	前年比	2004年 7~9月 累 計	2004年 10~12月 累 計	前期比	前 年 同期比	2004年 1~12月 累 計	前 年 同期比	12月分	前月比	前 年 同月比
1. 鉄鋼・非鉄金属		5,557	151.0	2,011	2,257	112.2	139.5	8,613	155.0	822	112.9	214.1
2. 金属製品		15,209	156.3	5,431	5,319	97.9	123.2	22,067	145.1	1,986	138.2	145.7
機械製造業	3. 一般機械 (内金型)	160,512	133.5	66,551	68,446	102.8	147.2	264,502	164.8	22,492	93.7	148.2
	4. 電気機械	30,483	135.1	14,451	11,825	81.8	131.6	50,902	167.0	4,438	107.8	140.0
	5. 自動車 (内自動車部品)	158,988	112.4	58,671	71,429	121.7	169.2	225,632	141.9	21,707	89.5	159.5
	6. 造船・輸送用機械	12,074	84.5	5,106	4,668	91.4	173.1	17,328	143.5	2,596	161.4	300.8
	7. 精密機械	24,176	146.9	6,998	7,559	108.0	120.4	32,990	136.5	3,287	138.1	141.9
	3~7. 小計	386,233	122.6	151,777	163,927	108.0	153.7	591,354	153.1	54,520	96.7	155.2
	8. その他製造業	24,507	172.6	8,656	9,163	105.9	124.7	37,643	153.6	2,840	79.8	114.2
9. 官公需・学校	1,873	88.1	365	565	154.8	108.7	1,842	98.3	356	323.6	261.8	
10. その他需要部門	1,644	269.5	429	617	143.8	108.6	2,971	180.7	208	114.3	118.2	
11. 商社・代理店	6,564	131.6	2,048	1,934	94.4	96.9	8,349	127.2	730	145.1	106.4	
1~11. 内需合計	441,587	126.1	170,717	183,782	107.7	149.4	672,839	152.4	61,462	97.7	152.3	
12. 外需	409,514	125.8	148,880	153,966	103.4	149.0	563,353	137.6	55,272	109.6	149.4	
1~12. 受注累計 (内NC機)	851,101	125.9	319,597	337,748	105.7	149.2	1,236,192	145.2	116,734	103.0	150.9	
		807,208	126.4	303,842	324,195	106.7	151.4	1,176,257	145.7	111,467	102.3	152.4
販売額 (内NC機)	760,462	116.9	262,598	261,016	99.4	141.2	966,503	127.1	98,982	117.8	135.6	
	723,101	117.1	249,991	250,130	100.1	142.1	916,688	126.8	94,625	116.9	135.1	
受注残高 (内NC機)	361,158	117.1	515,307	576,517	111.9	159.6	576,517	159.6	576,517	102.7	159.6	
	327,913	122.3	478,112	536,135	112.1	163.5	536,135	163.5	536,135	102.8	163.5	

(社)日本工作機械工業会

2004年 日工会受注・販売実績

去る1月21日(社)日本工作機械工業会は2004年の工作機械受注実績を発表した。受注総額は前年比45.2%増の1兆2,361億円で前年に引続き大幅な増加となった。年初見通した9,500億円、7月に行なった上方修正見通し1兆1,500億円を共に上回り、97年以来7年ぶり1兆円を超え、90年1兆4,121億円(史上最高額) 89年1兆2,697億円に次ぐ史上3番目となる高い受注額を記録した。

うちNC工作機械は1兆1,763億円(前年比45.7%増)で90年1兆1,738億円を上回り史上最高額を更新した。

内需は52.4%増の6,728億円となり2年連続のプラス。外需も37.6%増の5,634億円となり、98年の5,320億円を上回り史上最高額を6年ぶりに更新した。

日工会月別受注及び過去5年の内外別実績は毎月日工販ホームページに掲載されているのでご覧ください。

同時に発表された機種別受注実績及び販売実績は下記の通りです。業種別受注高は左頁を参照願います。

(単位：百万円、%)

機 種	曆 年	受 注			販 売		
		2003年	2004年	前年比	2003年	2004年	前年比
旋 盤		251,123	362,807	144.5	225,298	285,055	126.5
ポ ー ル 盤		26,753	38,983	145.7	19,956	22,058	110.5
中 ぐ り 盤		10,229	17,321	169.3	9,163	12,476	136.2
フ ラ イ ス 盤		13,559	13,797	101.8	11,235	11,647	103.7
研 削 盤		76,812	119,840	156.0	68,789	89,492	130.1
歯 車 機 械		21,703	24,081	111.0	16,887	20,155	119.4
専 用 機		52,212	63,204	121.1	52,683	41,163	78.1
マシニングセンタ計		262,925	418,112	159.0	230,033	344,457	149.7
立 て 形		130,042	190,640	146.6	106,422	159,783	150.1
横 形		112,920	183,131	162.2	106,804	156,978	147.0
そ の 他		19,963	44,341	222.1	16,807	27,696	164.8
放 電 加 工 機		46,409	57,627	124.2	43,735	54,834	125.4
そ の 他		55,193	76,798	139.1	50,448	60,892	120.7
F M S (丸 ・ 角) 計		34,183	43,622	127.6	32,235	24,274	75.3
計		851,101	1,236,192	145.2	760,462	966,503	127.1

注：2000年より、マシニングセンタは立て形、横形、その他が内訳機種として特掲され、FMSの丸物と角物は統合され合計のみとなった。

工作機械・FA流通動態調査 1

統計1

単位百万円

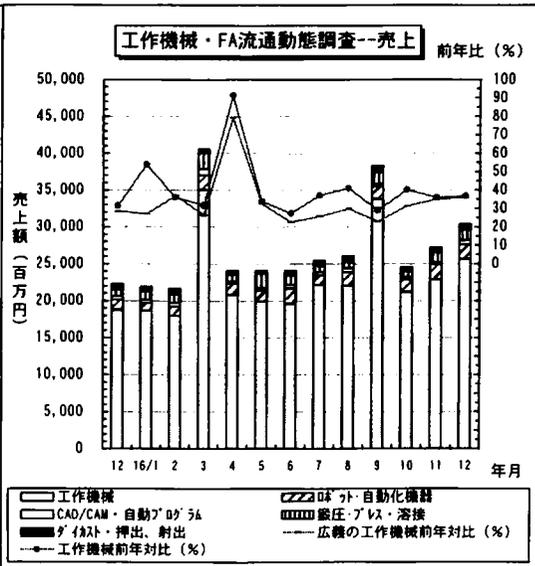
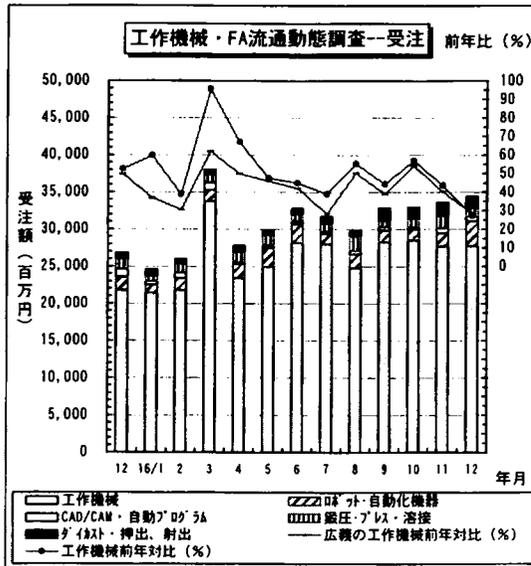
34社合計		受 注				売 上				
調査月次	16/12	前月比	前年比	16/1-16/12	前年比	16/12	前月比	前年比	16/1-16/12	前年比
工作機械	27,743	0.2%	27.3%	318,506	50.4%	25,641	12.2%	36.8%	279,623	38.6%
広 義 の 工 作 機 械	3,339	84.0%	94.6%	22,331	24.3%	1,978	-2.2%	41.8%	19,795	17.4%
ロボット・自動化機器	647	-4.0%	-42.6%	6,314	5.4%	565	80.4%	21.7%	5,340	-6.6%
CAD/CAM・自動プログラム	1,133	-30.9%	-14.4%	14,343	-11.4%	1,417	9.7%	55.4%	15,260	2.4%
鍛圧・プレス・溶接	1,541	-15.5%	83.5%	12,864	10.1%	752	0.5%	-5.8%	8,420	-15.2%
ダイカスト・押出・射出	34,403	2.3%	28.4%	374,357	44.5%	30,353	11.5%	36.1%	328,439	31.9%
小計	12,278	5.1%	31.6%	131,991	13.5%	9,725	-0.1%	22.3%	122,013	1.9%
工作機械以外の扱い商品	46,681	3.0%	29.2%	508,749	34.4%	40,078	8.4%	32.4%	451,686	21.7%
合計	1,209	-0.2%	-0.5%							
従業員数										

統計2

単位百万円

32社合計		受 注				売 上				
調査月次	16/12	前月比	前年比	16/1-16/12	前年比	16/12	前月比	前年比	16/1-16/12	前年比
直販	21,618	16.3%	10.3%	242,805	18.6%	18,820	-6.1%	23.0%	224,451	22.4%
(内リース)	1,924	9.7%	75.6%	21,078	31.1%	2,204	27.6%	54.6%	20,581	33.4%
卸	9,406	16.9%	32.6%	104,533	58.8%	10,000	32.8%	60.7%	96,910	51.4%
輸入	569	24.2%	147.4%	4,905	148.5%	374	209.1%	236.9%	2,385	-34.0%
輸出	4,738	-10.5%	38.8%	46,217	41.8%	2,722	-1.2%	-2.2%	33,926	15.2%
(内トランスプラント)	96	-6.8%	28.0%	697	27.9%	0	-100.0%	-100.0%	367	-2.1%
従業員数	960	0.1%	0.9%							

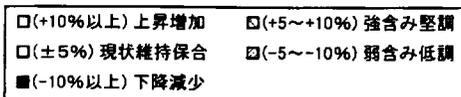
注：本調査は会員68社中統計1に関しては34社、統計2に関しては32社の回答を得て集計したものである。
折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。
参考までに今月のデータ提供会社総数は39社である。



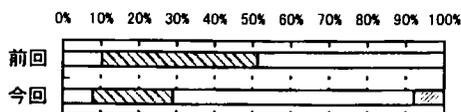
工作機械・F A流通動態調査 2

今回平成17年1月調査/前回平成16年10月調査対比

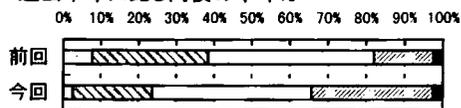
1. 工作機械全体見通し



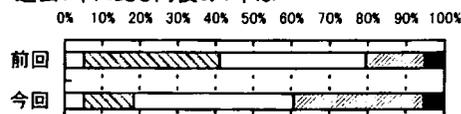
現状に比し直近(1~3ヵ月)は



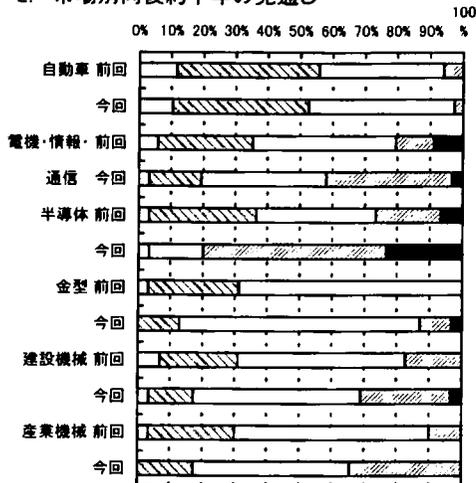
過去半年に比し向後の半年は



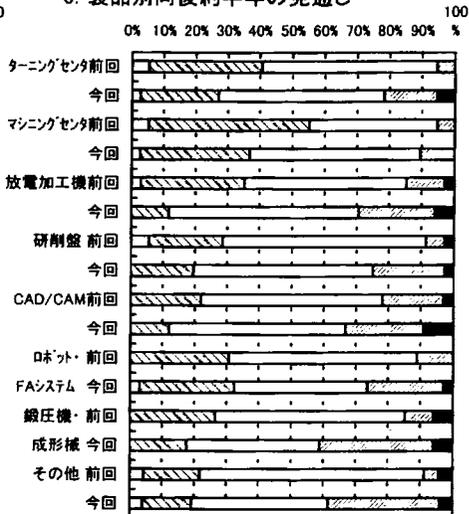
過去1年に比し向後の1年は



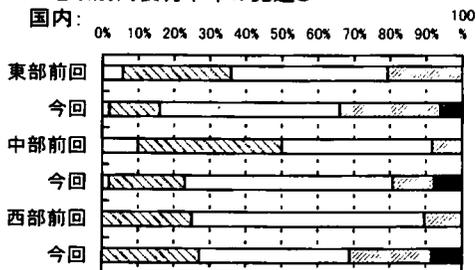
2. 市場別向後約半年の見通し



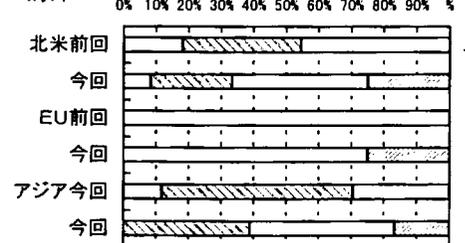
3. 製品別向後約半年の見通し



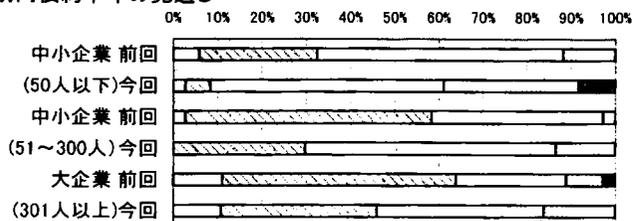
4. 地域別向後約半年の見通し



海外:



5. ユーザ規模別向後約半年の見通し



注: 調査データは日工販ホームページをごらんください。

工作機械と私



榎井 高
小牧営業所 所長
加藤 久佳

私は入社以来32年をこの業界で過ごしてきました。思い返して見ますと、初めて工作機械を知ったのはちょうどNCが登場した時期であり、「NCって何?」、「数値制御だって」、「数値制御って何?」、「さあ...」というような会話があり、私自身も何のこともよく分らないままにカタログを眺めていた記憶があります。その後、工作機械はCNCが登場し、現在のようにすばらしく発展してきました。しかし、私自身がその販売に携わったのは平成以降で、まだ十数年にしかありません。

それ以前は何をしていたかといいますと、入社時は空圧機器を扱う部門へ配属され、その後はそれに加えて切削工具・測定機器などを扱う部門と、それらの経験の方が長いのです。しかし、この時の経験が工作機械を扱うようになった時に大いに役に立ち、そこで経験させていただけたことに感謝をしています。

何故ならば 工作機械にはこれらの全ての要素が深く関係しているからです。お陰で商談を進めていく中で幅広い視点での話をさせていただくことができました。

工作機械はマザーマシンと言われ、世の中の様々なものを生産する機械設備を生産するという重要なところに位置付けられています。各メーカーの技術者の方々の英知と、製造に携わった方々の匠の技が結集したものです。このような工作機械を扱うことのできる喜びを噛み締めて日々の営業に頑張っています。しかし、いくら優秀な工作機械であってもそれだけでは“もの”を作ることはできません。“良いもの(良い製品)”を作るには 機械に付随して切削工具が必要であり、加工したものを測定する測定機器が不可欠です。その他にも その機械を使われる方々の経験、技術などが総合的にうまく噛み合った時に良いものができると思います。

そんな中で 私たち営業はお客様とメーカーの間を情報で橋渡しすることが基本ですが、現在はいろいろな情報が電子媒体を通して行き交い、単なる情報の伝達だけではお客様にもメーカー様にも満足していただけない時代となりました。私たちに求められているのは ただ単に販売するのではなく、お客様の仕事を理解し、設備を含めた最も適した生産システムを提案し、サポートしていくことであると思います。それには工作機械の知識はもちろんのこと、幅広い分野の知識を持ってお客様やメーカーの要望に応えていくことが大切だと思います。商社が右から左へ、左から右へと物を動かしている時代はとうの昔に終わっています。幅広い知識と、ありきたりでない情報をいかにして提供できるかが よく言われる付加価値であり、どんなに忙しい時にでも時間を割いて話を聞いていただけるような営業になることが肝要だと思います。

また、世の中がどんなに変わっていても “もの”を作るのは人です。しかも人は感情の動物です。

皆様も経験があると思いますが、人にとって一番気持ちの良いことは“痒いところに手が届く”ことです。この気持ちを忘れないようにするとともに、次代を担う若い人たちにも伝えていきたいと思っています。



リレー随筆



Part 2

最近思うこと



(株)山 善 大阪本社
機械部
伊澤 祐平

2004年4月から社会人の一員として働いてみて、いろいろ感じるがあります。簡単に言うと、学生時代に描いていた理想の社会人像と、現在の自分とのギャップなのですが、学生時代の忘れたくない気持ちがいっぱいある中で、意外と社会人になってからの考えのほうが優れていたり、要は複雑な心境です。

毎日、朝早くから通勤ラッシュにもまれながら出社して、自分の気持ちを抑えながらパソコンをたたく日々なのですが、いろいろ学んだこともあります。

「建前を捨てて、本音で生きよう。」と、人はしばしば口にしますが、「建前」は、自身の日常を律する規範だと感じます。「本音」は、時に自分の弱音だったり、逃げになったりする危険性があります。「建前」が窮屈に感じられるのは“外的規範”と真っ向からきめつけているからでしょう。

人間は、仕事にしろ何にしろ、責任を持って成し遂げなくてはならない課題があって、それに真正面から全力で向かうことで、自分の想像以上の力が発揮でき、自身の成長、また新しい自分の姿に出会えるのだと思います。

また、働くということは、傍(はた)の人を楽(らく)にする意味にもつながり、自分の仕事にばかり向かっているより、人のことを考えて動くほうが、僕はやる気が起こります。

最近読んだエッセーで、子供がテストでいい点を取ったとき「よく頑張ったね。」のように、本人本位で褒めるよりも「お祖母ちゃんが喜んでいるよ。」というような、他人にもいい影響を与えているという自覚を与えるほうが人間は限界以上の可能性を発揮できると書いていました。

また、僕は幕末が好きで、最近流行っていた「新撰組」に描かれていた幕末の時代、多くの青年が志に生きていましたが、僕が思うのは、「日本のため、人のため、」というように、「他者のために」という気持ちが、人を結び、世の中を変えたのだと思います。

まだ10ヵ月しか働いていませんが、僕のこれからの仕事に対する姿勢として決意することは、他人のために動く、ということと、環境をも変えていく、ということです。環境は自分の志次第で天国にも地獄にもなりうるので、しっかり前を向いて真っ直ぐに進んでいきたいです。

最後に、幕末志士の高杉晋作の辞世の句を紹介して、僕のリレー随筆を終わらせていただきます。

おもしろき こともなき世を おもしろく
以上です。ありがとうございました。

業界対策委員会

平成16年度日工販・日工会役員会合

日 時：平成16年12月14日(火)

16:00~20:00

場 所：虎ノ門パストラル新館3階「おもと」

出席者：

日工会：大西会長、山崎・中村副会長、
武藤・細田委員長、庄野専務理事、
木村部長(7名)

日工販：石川会長、植田副会長、
田尻・尾瀬委員長、荘司専務理事(5名)

意見交換：市場動向、平成17年受注見通し

冒頭、石川会長より、「輸出との係わり合いが少ない販社の現状はメーカーのように素晴らしい状況ではないが、数年来の好景気であり、恵まれた1年であった。」との発言に対し、大西会長より、「JIMTOFが好評であった。11月の総受注は1,133億円、内需は629億円で13年9ヵ月振りの高水準で内需比率が高い。納期の問題はあるが、品質では迷惑を掛けないようにと言っている。自動車産業が高水準での投資をしており、ここ2~3年は1兆円の水準を確保できると見ており、経営体質を磐石にする好機である。」との発言があり、荘司専務理事の司会で意見交換に入った。

出席者発言は、新年下期に上昇傾向に足踏みができる気配はあるとの意見もあったが、総じて国内需要の拡大の可能性が強調され、国際競争力を高める設備投資や新鋭高級機の周知を図ることで更新需要を掘り起こすことにより2~3年は好況が持続できるとの意見が大勢であった。

尚、将来の工業会のあり方として、海外団体

と同様、方向としては業種を大きく捕らえる業界編成が望ましく、10年、20年先においても日本の工作機械産業がアジアの、世界の中心でいられるよう考えていくべきであるとの意見があった。

意見交換会終了後、会場を「おもと」より「錦」に移し、懇親会を開催。歓談大いに盛り上がり、定刻を迎え、両会の繁栄と、新年の好況持続を祈念して散会した。

第196回 定例理事会

日 時：1月12日(水)10:30~12:00

場 所：東京/八重洲富士屋ホテル

出席者：石川会長、副会長3名、専務理事、
理事14名、監事3名、事務局1名
会長挨拶：

新年おめでとうございます。本年は昨年よりもよい状態での出発できる正月であり、何処へ行っても景気のよい話しができる。本年の受注高を日工会は1兆1,500億円、ニュースダイジェスト社は1兆1,800億円と予測している。好調な時期ではあるが、バブル崩壊以降たいへん厳しい時代を過ごしたこともあり、あまり浮つかずに気を引き締めて業務に励んで行きたい。日工販としては本年の受注予測を、機械の納期遅延がユーザーの心理に及ぼす影響を加味し、内需を5,000億円超、外需を5,000億円とし1兆円を超える程度として発表したい。納期問題が順調に整理されて行けば上乘せすると思われる。何れにせよ、本年もまだ設備投資意欲は衰えないで続くと思われる。この理事会も本年中に200回を迎えるが、皆様の協力を得て日工販が一層力をつけるよう進めて行きたいのでよろしく願います。

議 題：

[付議事項]

(1) 会員入会の件

入会申し込みがあった下記10社に付き審議の結果、全員の賛成を得て入会承認された。

正会員3社：

東部地区 (株)国興

中部地区 岡谷機販(株)

西部地区 関西機械(株)

賛助会員メーカー7社：

オーエスジー(株)、(株)北川鉄工所、

京セラ(株)、住友電工ハードメタル(株)、

津田駒工業(株)、(株)東京精密、日立ツール(株)

承認後の会員数：

正会員71社

(東部35社、中部21社、西部15社)

賛助会員メーカー52社

賛助会員リース18社

計141社

(2) 日刊工業新聞社主催「2005自動車部品生産システム展」協賛のこと

会期：平成17年6月15日(水)～18日(土)

会場：東京ビッグサイト

2年ごとに開催。自動車部品及び関連部品の展示が主体。経済産業省、各商工会議所、関連振興機構等共催。工業会多数が協賛予定。協賛に関して金銭的な負担は一切発生しない。討議の結果、協賛が承認された。

(3) 総会開催時(6月8日)講演・依頼先について
本年4月開催の名古屋万博テーマである環境問題等のテーマ案があり、引き続き検討。

[報告事項]

(1) 理事交代

平成17年1月1日

米沢工機(株) 専務取締役 青木俊一

(2) 流通動態調査平成16年11月結果

11月の工作機械受注高は前年同月比43.8%増。但し、伸び率がやや緩やかになってきている。

(3) 委員会報告

教育委員会：SE更新研修講座11/11&18。

日工販ニュース11・12月合併号参照。

委員会11/29。日工販ニュース1月号掲載。

中部地区委員会：工場見学会11/12。

日工販ニュース11・12月合併号参照。

講演会・忘年懇親会12/3。

日工販ニュース1月号参照。

調査広報委員会11/15。

日工販ニュース11・12月合併号参照。

東部地区委員会：懇親ゴルフ会11/16。

日工販ニュース11・12合併号参照。

委員会・講演会・忘年懇親会12/10。

西部地区委員会：懇親ゴルフ会11/30。

講演忘年懇親会12/2。

日工販ニュース1月号参照。

業界対策委員会：

日工役員との会合12/14。左頁参照

(4) その他

平成17年度理事会日程

5/11(名) 7/13(東) 9/7(名)

11/9(大) 18年1/11(東) 3/8(大)

次回定例理事会：

3月9日(水)12:30～15:00

大阪産業創造館

“まず動く” 多胡 輝 著（高木書房）



サンコー商事(株)
小牧支店長
柴 山 勉

この本が出版されたのは、約10年前、ちょうどバブル崩壊直後の頃だと思います。当時、我々設備営業をしていたものにとって、売り上げは半減、ユーザーの次の設備計画もなかなかはっきりせず、ただやみくもにいままでの営業習慣で動き回っている状態が続いている頃、なにげなく書店に立ち寄った時に見つけた本です。著者はみなさんよくご存知の多胡教授、私自身、それまで自己啓発的な本は興味はなく、あまり読んだ事はなかったのですが、（せいぜい学生時代に読んだマーフィーの100の法則くらい）頭の体操が面白かったという記憶と、題名のシンプルさに興味を引かれ、なんとなく購入した本であります。内容は心理学的な局面から書かれており、非常にわかりやすく読みやすく、2時間もあれば十分読める本でもあります。

さて内容ですが、当然動く事のノウハウ本ではなく、まず一步を動きだす事の重要性を説いてあります。現実にはその一步を頭でわかっていても踏み出せない、周りのせいにしてできないと自分を正当化し安心する。例えば、仕事上の悩みを抱えたとき、その解決に本を読み答えを得たとしても悩みは消えない。解決への道を開くには、答えの中のなにかひとつでも実行する事、動く事、発想の転換と過去の自分との比較、心の具体的動きが必要である。本書はさらに具体的事例を取り上げて、なぜうまくいったかが書かれており、最終的には心のあり方がすべてを決めるのである、と非常に読みやすくわかりやすい文章で、誇りを持った人生を送ることを説いています。

当時、ガタガタのどうしようもない状況の中で、まず動き回っていた私にとって、人間に優しい気持ちをもって書かれたこの本は、自分を肯定された面もあり、少しだけ勇気を与えられたと感じていました。今また、読み返してみますと、不思議なことに当時「当たり前じゃないか、いわれなくともわかっている」、「一般的な事だ、こんな優等生的な考えはできない」と感じていた部分も、意外にきわめてスムーズに抵抗なく受け入れる事ができるのです。

誰でもこういった自己啓発的な本は一冊や二冊は読んでいると思います。また、こういった本は読む必要がない方も大勢いらっしゃると思いますが、私のような、ごく一般人の間には物事に対する基本的な考え方を再認識することができるなかなか価値のある本だと思います。もちろん繰り返して読む必要性もなければ、重要な部分に線を引いて読む必要もありません。また、この本を読んだからといって、すべてがうまくいくとは思えませんし、「まず動く！」と云われても、動くことは分るが難しい事でもあります。ただ仕事を含めた多くの問題に悩み、突き当たったとき、まず前向きに考え一步動きだす事を実行することは私にとって、また営業に携わるものにとっても非常に重要なことであり、常に“まず動く”そうありたいとこの一冊を読み痛感した次第です。

ぜひ、一読をお勧めいたします。

行事予定

東部地区委員会	2月16日(水)	仏教伝道センター
東部研修会懇親会	2月16日(水)	仏教伝道センター
調査広報委員会	2月21日(月)	機械工具会館
教育委員会	2月24日(木)	機械工具会館
政策委員会	3月9日(水)	大阪産業創造館
定例理事会	3月9日(水)	大阪産業創造館
中部地区研修会	3月18日(金)	名古屋ABC
展示会		
TIMTOS2005	3月15日(火)~20日(日)	台湾・台北
CIMT2005	4月11日(月)~17日(日)	中国・北京
INTERMOLD2005	4月13日(水)~16日(土)	東京ビッグサイト
微細精密加工技術展2005	5月25日(水)~28日(土)	インテックス大阪
2005自動車部品生産システム展	6月15日(水)~18日(土)	東京ビッグサイト
EMO Hannover 2005	9月14日(水)~21日(水)	ドイツ・ハノーバー
第10回メカトロテックジャパン	10月19日(水)~22日(土)	ポートメッセ名古屋

編集後記

昨年10月23日の新潟中越地震で多数の死傷者と発生時には10万人に及ぶ避難者が出て、災害の恐ろしさを知らされたばかりでしたが、12月26日にインドネシア・スマトラ沖で発生した地震と津波による破壊力はすさまじく、発生より1ヵ月が過ぎた現在死者は23万人を超え、今なお行方不明者が多数いる模様です。被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。本年の通常国会が召集され小泉首相が施政方針演説を行いました。衆議院本会議での民主党岡田代表による再質問に対しての小泉首相の答弁をめくり紛糾し、代表質問中に民主党議員が本会議場から退出するという、前代未聞のことが起きました。両者にとっては政治的駆け引きがあるのかもしれませんが、国民が求める年金制度改革と、小泉首相が本丸と称する郵政民営化等の重要案件についてしっかりと国会で討議されることこそ、大事ではないでしょうか。

日工会統計によると、昨年の工作機械受注総額は1兆2,362億円に達し、1990年、1989年に次ぎ史上3番目の高水準となりました。内需額6,735億円は前年比52.5%増であり、外需5,614億円は前年比37.6%増で1998年の5,320億円を上回り史上最高となりました。内需は前年比一般機械64.8%、自動車41.9%、電気機械67.0%、精密機械36.5%と全ての業種で増加しました。外需では中国54.5%、米国41.8%、ドイツ51.6%増をはじめ各国が押しなべて増加しました。この結果、海外主要地域の割合はアジア39.4%、北米31.9%、欧州26.2%となりました。

日工販新年賀詞交歓会には大勢の方が参加され、好況を背景に明るく賑やかに開催されました。本年の業界見通しも円高による輸出への影響が懸念されますが、旺盛な国内設備投資機運と拡大する中国を始めとするアジア市場及び回復基調の欧米市場向け輸出はおおむね順調に推移するとの予測が示され、昨年に続いての活況が期待できそうです。

「日工販ニュース」 Vol.17 - No.2

平成17年2月15日発行

発行 日本工作機械販売協会
〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階
電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879
発行責任者 専務理事 荘司 博章
編集 日工販調査広報委員会
委員長 田尻 哲男

日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (50音順)

平成17年2月1日現在

正会員(全71社)

[東部地区(35社)]

(株) 旭 商 工 社
 伊藤忠メカトロニクス(株)
 今井機械工業(株)
 (株) エム エム ケー
 大石機械(株)
 (株) カ ナ デ ン
 (株) 兼 松 K G K
 (株) 京 二
 (株) 共 和 工 機
 群馬工機(株)
 (株) 国 興 會
 (株) 三 機 商 會
 三洋マシン(株)
 サンワ産業(株)
 シマモト技研(株)
 住友商事マシネックス(株)
 (株) セイロジャパン
 誠和エンジニアリング(株)
 太平興業(株)
 (株) 高 橋 機 械
 帝通エンジニアリング(株)
 (株) テ ヅ カ
 東京金子機械(株)
 (株)ホームテクソリューションズ
 常盤産業(株)
 トッキ・インダストリーズ(株)
 独協機械(株)
 (株) ト ミ タ
 (株) N a I T O
 日鋼商事(株)
 藤田総合機器(株)
 松茂工販(株)
 三菱商事テクノス(株)
 ユアサ商事(株)
 米沢工機(株)

[中部地区(21社)]

石原商事(株)
 (株) 井 高
 岡谷機販(株)
 カト一機械(株)
 釜屋(株)
 岐阜機械商事(株)
 甲信商事(株)
 三栄商事(株)
 三機商事(株)
 サンコー商事(株)
 三立興産(株)

下野機械(株)
 (株) 大 成
 (株) 大 誠
 (株) 東 陽
 豊田通商(株)
 (株) 日 本 精 機 商 會
 浜松貿易(株)
 (株) 不 二
 山下機械(株)
 ワシノ商事(株)

[西部地区(15社)]

赤澤機械(株)
 伊吹産業(株)
 植田機械(株)
 岡三機械(株)
 (株) お じ ま
 関西機械(株)
 京華産業(株)
 五誠機械産業(株)
 桜井機械(株)
 (株) ジ ー ネ ッ ト
 (株) 立 花 エ レ テ ッ ク
 日本産商(株)
 マルカキカイ(株)
 宮脇機械プラント(株)
 (株) 山 善

賛助会員(全70社)

[製造業(52社)]

(株) エ グ ロ
 エヌティーツール(株)
 エンシュウ(株)
 オーエスジー(株)
 オークマ(株)
 大隈豊和機械(株)
 大阪機工(株)
 (株) 岡本工作機械製作所
 (株) 神崎高級工機製作所
 (株) 北 川 鉄 工 所
 キタムラ機械(株)
 キャンタス(株)
 京セラ(株)
 (株) グラフィックプロダクツ
 黒田精工(株)
 (株) シギヤ精機製作所
 新日本工機(株)
 住友電工ハードメタル(株)
 (株) ソ デ ィ ッ ク
 大昭和精機(株)
 高松機械工業(株)

(株) ツ ガ ミ
 津田駒工業(株)
 (株) テクノワシノ
 (株) 東 京 精 密
 東芝機械マシナリー(株)
 東洋精機工業(株)
 豊田工機(株)
 (株) ナガセイテグレックス
 中村留精密工業(株)
 (株) 日 研 工 作 所
 (株) 日 平 ト ヤ マ
 野村精機(株)
 浜井産業(株)
 日立ツール(株)
 ファナック(株)
 富士機械製造(株)
 ブラザー販売(株)
 豊和工業(株)
 牧野フライス精機(株)
 (株) 牧野フライス製作所
 (株) 松浦機械製作所
 三井精機工業(株)
 (株) ミ ッ ト ヨ
 三菱重工業(株)
 三菱電機(株)
 三菱マテリアルツールズ(株)
 (株) ミ ヤ ノ
 メルダシステムエンジニアリング(株)
 (株) 森 精 機 製 作 所
 安田工業(株)
 ヤマザキマザック(株)

[リース業(18社)]

共友リース(株)
 近畿総合リース(株)
 興銀リース(株)
 首都圏リース(株)
 昭和リース(株)
 GEキャピタルリーシング(株)
 住商リース(株)
 ダイヤモンドリース(株)
 東京リース(株)
 東銀リース(株)
 東芝ファイナンス(株)
 日本機械リース販売(株)
 日立キャピタル(株)
 (株) 芙蓉リース販売
 三井住友リース(株)
 三井リース事業(株)
 三菱電機クレジット(株)
 U F J セ ン ト ラ ル リ ー ス (株)